

# 食べて、参って、くつろいで 黒門市場、高津宮、空堀の由来とまちづくり

## くろもんいちば 黒門市場

天下の台所と呼ばれた大阪を代表する商店街といえは、黒門市場、大阪の発展を支えてきた歴史とほんまもんの味をおい求め、ますます活気づく取組みは必見！

### なぜ「ク・ロ・モ・ン」なのか？

天下の台所大阪を代表する商店街「黒門市場」。その名前の由来について考えたことはありますか。

「クロモン」は、黒い門と書きますが、商店街にも、周囲にも黒い門は見当たりません。「赤門」といえば、東京大学の門が有名でインボルになっています。実は、ここにもかつて「黒門」が存在したのです。明治時代頃、大火で焼失し、移転するまでここにあった圓明寺、その門が黒く、その門前に発展したため、この商店街は黒門市場と呼ばれるようになったのです。

### まちの発展と商店街の発展

明治の頃、千日前かいわいには刑場がありました。その後、刑場は廢止され、芝居小屋ができ、人が集まりだしました。その頃から見物客を自らに飲食店が増え、飲食店を支えるために鮮魚を中心とした食料品店が100件ほども集まりました。それが黒門市場の起源と言われています。（商店街理事長談）

### 「ほんまもん」で勝負！

黒門市場は店頭での小売だけでなく、老舗料亭などに食材を卸すことで大阪の食文化を支え、繁盛してきました。しかし、近年の経済情勢の変化で庶民の料亭が増え、商売の転換をされています。また、中国の冷凍餃子の事件など、食の安全が脅かされていることも商店街のあり方を考え直すきっかけになりました。

そこで、掲げられた活性化に向けたキャッチフレーズが「ほんまもん」でした。黒門市場のものは絶対安全にしたいという思い。また、黒門市場の商品を大丈夫だと、黒門市場のブランドイメージを強化したいという戦略でもあります。

「黒門」「黒門市場」を冠した商品の開発、商標登録など具体的な取組みがどんどん進められています。



商店街の上に掲げられているキャッチフレーズ

### 耳寄りばなし 「黒門市場ポンズ」新発売！

2008年12月、黒門ブランドの商品「黒門市場ポンズ」が、新発売されました。企画は商店街の若手メンバーからの発案だったとか。黒門市場では、活性化に向けて、若い人の考えを積極的に取り入れようと、熱心に活動しています。

ポンズの発売は新聞にも取り上げられ、人気です。黒門市場の生鮮食品との組合で名店家庭でお鍋を味わってみてはいかがでしょうか。将来は百貨店にも出荷したいとのことです。大きな夢が発進しました！



#### 知つて得する！地域情報

■黒門市場ホームページ  
<http://www.kuromon.com/>

イベント情報のほか、黒門市場ポンズをはじめネットショッピングの情報もあります。

■黒門市場上団とくとくペッパー  
毎週土曜日に使うことができる引券がついています。チケットは新規登録の他、市内のほかで購入できます。携帯電話からも右のQRコードで見ることができます。（お店によって利用できる条件があるので確認下さい）



区南部に位置する黒門市場から、高津宮、空堀を順に紹介。商店街、神社、下町と異なる魅力をもったそれぞれの地区でのまちあるきを楽しんでもよし、少し足を延ばして、2地区、3地区と異なる表情をもつまちの魅力にふれるもよし！

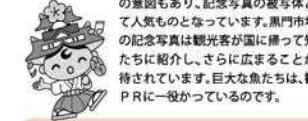
## こうづぐう 高津宮

昔も今も賑わい高津宮、落語にも登場する「落葉」についての貴重なお話をはじめ、昔から現在に至る取組みのルーツとねらいは区民必聴のネタ。

### 巨大なフグやカニ、マグロたちが出現！

活性化に向けた新たなターゲットとして考えられているのが、観光客です。関西国際空港の開港以来、特に食文化の活性化につながったアラカルトの食事客が増えています。

アーケード内吊り下げられた巨大なフグやカニなど全7種類の大目ニュメント。これらは、2008年3月、もっと元気にそしてお客様を呼び込むシボルとしてつくられました。観光客にわかりやすく商店街の食材を表示するとの意図もあり、記念写真の被写体として人気のとなっています。黒門市場の記念写真は観光客が銀座に帰ってきたときに天王寺区東高津町にあります。東高津宮は、一時期、高津宮が移った場所の一つです。



### 新しい区の方や観光客にもきてもらいたい

商店街では、近年、マンション建設が盛んで、区内の人口が増えていくことで、観光客だけでなく、転入してきた新住民に対するPRもされています。特に、普段違い、家庭で料理をしない方が増えていますから、食材だけでなく、すぐに食べることのできる総菜などの中食の販売や試食ができる店舗を増やそうと取り組んでいることです。

### 地域の繁栄こそ、商店街の繁栄！

「地域が繁栄しないと市場も繁栄しない。またその逆もある」と、商店街理事長の西さんは熱く語ります。祭りの時に「シャッター一街で神輿を説いてください！」という想いで、まず一つの店舗が魅力的になる努力をして、祭りを支援したいと考えているのです。お金を出せただけの個の店舗の力を高めるためにまずは自分のこと、しっかり説いて欲しいことをして欲しい。繁栄こそ地域貢献とも話されています。商店街は元気をくれる場所ですね。



### 黒門市場のあゆみ

明治35(1902)年  
大阪府より公認市場「高津宮市場」として認可  
明治45(1912)年  
大正昭和(1915)年  
昭和14(1939)年  
昭和23(1948)年  
昭和28(1953)年  
昭和35(1960)年  
昭和40(1965)年  
昭和45(1970)年  
昭和50(1975)年  
昭和55(1980)年  
平成1(1989)年  
平成11(1999)年  
平成21(2009)年  
平成26(2014)年  
平成28(2016)年  
平成30(2018)年  
平成35(2020)年  
平成36(2022)年  
平成37(2023)年  
平成38(2024)年  
平成39(2025)年  
平成40(2026)年  
平成41(2027)年  
平成42(2028)年  
平成43(2029)年  
平成44(2030)年  
平成45(2031)年  
平成46(2032)年  
平成47(2033)年  
平成48(2034)年  
平成49(2035)年  
平成50(2036)年  
平成51(2037)年  
平成52(2038)年  
平成53(2039)年  
平成54(2040)年  
平成55(2041)年  
平成56(2042)年  
平成57(2043)年  
平成58(2044)年  
平成59(2045)年  
平成60(2046)年  
平成61(2047)年  
平成62(2048)年  
平成63(2049)年  
平成64(2050)年  
平成65(2051)年  
平成66(2052)年  
平成67(2053)年  
平成68(2054)年  
平成69(2055)年  
平成70(2056)年  
平成71(2057)年  
平成72(2058)年  
平成73(2059)年  
平成74(2060)年  
平成75(2061)年  
平成76(2062)年  
平成77(2063)年  
平成78(2064)年  
平成79(2065)年  
平成80(2066)年  
平成81(2067)年  
平成82(2068)年  
平成83(2069)年  
平成84(2070)年  
平成85(2071)年  
平成86(2072)年  
平成87(2073)年  
平成88(2074)年  
平成89(2075)年  
平成90(2076)年  
平成91(2077)年  
平成92(2078)年  
平成93(2079)年  
平成94(2080)年  
平成95(2081)年  
平成96(2082)年  
平成97(2083)年  
平成98(2084)年  
平成99(2085)年  
平成100(2086)年  
平成101(2087)年  
平成102(2088)年  
平成103(2089)年  
平成104(2090)年  
平成105(2091)年  
平成106(2092)年  
平成107(2093)年  
平成108(2094)年  
平成109(2095)年  
平成110(2096)年  
平成111(2097)年  
平成112(2098)年  
平成113(2099)年  
平成114(2000)年  
平成115(2001)年  
平成116(2002)年  
平成117(2003)年  
平成118(2004)年  
平成119(2005)年  
平成120(2006)年  
平成121(2007)年  
平成122(2008)年  
平成123(2009)年  
平成124(2010)年  
平成125(2011)年  
平成126(2012)年  
平成127(2013)年  
平成128(2014)年  
平成129(2015)年  
平成130(2016)年  
平成131(2017)年  
平成132(2018)年  
平成133(2019)年  
平成134(2020)年  
平成135(2021)年  
平成136(2022)年  
平成137(2023)年  
平成138(2024)年  
平成139(2025)年  
平成140(2026)年  
平成141(2027)年  
平成142(2028)年  
平成143(2029)年  
平成144(2030)年  
平成145(2031)年  
平成146(2032)年  
平成147(2033)年  
平成148(2034)年  
平成149(2035)年  
平成150(2036)年  
平成151(2037)年  
平成152(2038)年  
平成153(2039)年  
平成154(2040)年  
平成155(2041)年  
平成156(2042)年  
平成157(2043)年  
平成158(2044)年  
平成159(2045)年  
平成160(2046)年  
平成161(2047)年  
平成162(2048)年  
平成163(2049)年  
平成164(2050)年  
平成165(2051)年  
平成166(2052)年  
平成167(2053)年  
平成168(2054)年  
平成169(2055)年  
平成170(2056)年  
平成171(2057)年  
平成172(2058)年  
平成173(2059)年  
平成174(2060)年  
平成175(2061)年  
平成176(2062)年  
平成177(2063)年  
平成178(2064)年  
平成179(2065)年  
平成180(2066)年  
平成181(2067)年  
平成182(2068)年  
平成183(2069)年  
平成184(2070)年  
平成185(2071)年  
平成186(2072)年  
平成187(2073)年  
平成188(2074)年  
平成189(2075)年  
平成190(2076)年  
平成191(2077)年  
平成192(2078)年  
平成193(2079)年  
平成194(2080)年  
平成195(2081)年  
平成196(2082)年  
平成197(2083)年  
平成198(2084)年  
平成199(2085)年  
平成200(2086)年  
平成201(2087)年  
平成202(2088)年  
平成203(2089)年  
平成204(2090)年  
平成205(2091)年  
平成206(2092)年  
平成207(2093)年  
平成208(2094)年  
平成209(2095)年  
平成210(2096)年  
平成211(2097)年  
平成212(2098)年  
平成213(2099)年  
平成214(2000)年  
平成215(2001)年  
平成216(2002)年  
平成217(2003)年  
平成218(2004)年  
平成219(2005)年  
平成220(2006)年  
平成221(2007)年  
平成222(2008)年  
平成223(2009)年  
平成224(2010)年  
平成225(2011)年  
平成226(2012)年  
平成227(2013)年  
平成228(2014)年  
平成229(2015)年  
平成230(2016)年  
平成231(2017)年  
平成232(2018)年  
平成233(2019)年  
平成234(2020)年  
平成235(2021)年  
平成236(2022)年  
平成237(2023)年  
平成238(2024)年  
平成239(2025)年  
平成240(2026)年  
平成241(2027)年  
平成242(2028)年  
平成243(2029)年  
平成244(2030)年  
平成245(2031)年  
平成246(2032)年  
平成247(2033)年  
平成248(2034)年  
平成249(2035)年  
平成250(2036)年  
平成251(2037)年  
平成252(2038)年  
平成253(2039)年  
平成254(2040)年  
平成255(2041)年  
平成256(2042)年  
平成257(2043)年  
平成258(2044)年  
平成259(2045)年  
平成260(2046)年  
平成261(2047)年  
平成262(2048)年  
平成263(2049)年  
平成264(2050)年  
平成265(2051)年  
平成266(2052)年  
平成267(2053)年  
平成268(2054)年  
平成269(2055)年  
平成270(2056)年  
平成271(2057)年  
平成272(2058)年  
平成273(2059)年  
平成274(2060)年  
平成275(2061)年  
平成276(2062)年  
平成277(2063)年  
平成278(2064)年  
平成279(2065)年  
平成280(2066)年  
平成281(2067)年  
平成282(2068)年  
平成283(2069)年  
平成284(2070)年  
平成285(2071)年  
平成286(2072)年  
平成287(2073)年  
平成288(2074)年  
平成289(2075)年  
平成290(2076)年  
平成291(2077)年  
平成292(2078)年  
平成293(2079)年  
平成294(2080)年  
平成295(2081)年  
平成296(2082)年  
平成297(2083)年  
平成298(2084)年  
平成299(2085)年  
平成300(2086)年  
平成301(2087)年  
平成302(2088)年  
平成303(2089)年  
平成304(2090)年  
平成305(2091)年  
平成306(2092)年  
平成307(2093)年  
平成308(2094)年  
平成309(2095)年  
平成310(2096)年  
平成311(2097)年  
平成312(2098)年  
平成313(2099)年  
平成314(2000)年  
平成315(2001)年  
平成316(2002)年  
平成317(2003)年  
平成318(2004)年  
平成319(2005)年  
平成320(2006)年  
平成321(2007)年  
平成322(2008)年  
平成323(2009)年  
平成324(2010)年  
平成325(2011)年  
平成326(2012)年  
平成327(2013)年  
平成328(2014)年  
平成329(2015)年  
平成330(2016)年  
平成331(2017)年  
平成332(2018)年  
平成333(2019)年  
平成334(2020)年  
平成335(2021)年  
平成336(2022)年  
平成337(2023)年  
平成338(2024)年  
平成339(2025)年  
平成340(2026)年  
平成341(2027)年  
平成342(2028)年  
平成343(2029)年  
平成344(2030)年  
平成345(2031)年  
平成346(2032)年  
平成347(2033)年  
平成348(2034)年  
平成349(2035)年  
平成350(2036)年  
平成351(2037)年  
平成352(2038)年  
平成353(2039)年  
平成354(2040)年  
平成355(2041)年  
平成356(2042)年  
平成357(2043)年  
平成358(2044)年  
平成359(2045)年  
平成360(2046)年  
平成361(2047)年  
平成362(2048)年  
平成363(2049)年  
平成364(2050)年  
平成365(2051)年  
平成366(2052)年  
平成367(2053)年  
平成368(2054)年  
平成369(2055)年  
平成370(2056)年  
平成371(2057)年  
平成372(2058)年  
平成373(2059)年  
平成374(2060)年  
平成375(2061)年  
平成376(2062)年  
平成377(2063)年  
平成378(2064)年  
平成379(2065)年  
平成380(2066)年  
平成381(2067)年  
平成382(2068)年  
平成383(2069)年  
平成384(2070)年  
平成385(2071)年  
平成386(2072)年  
平成387(2073)年  
平成388(2074)年  
平成389(2075)年  
平成390(2076)年  
平成391(2077)年  
平成392(2078)年  
平成393(2079)年  
平成394(2080)年  
平成395(2081)年  
平成396(2082)年  
平成397(2083)年  
平成398(2084)年  
平成399(2085)年  
平成400(2086)年  
平成401(2087)年  
平成402(2088)年  
平成403(2089)年  
平成404(2090)年  
平成405(2091)年  
平成406(2092)年  
平成407(2093)年  
平成408(2094)年  
平成409(2095)年  
平成410(2096)年  
平成411(2097)年  
平成412(2098)年  
平成413(2099)年  
平成414(2000)年  
平成415(2001)年  
平成416(2002)年  
平成417(2003)年  
平成418(2004)年  
平成419(2005)年  
平成420(2006)年  
平成421(2007)年  
平成422(2008)年  
平成423(2009)年  
平成424(2010)年  
平成425(2011)年  
平成426(2012)年  
平成427(2013)年  
平成428(2014)年  
平成429(2015)年  
平成430(2016)年  
平成431(2017)年  
平成432(2018)年  
平成433(2019)年  
平成434(2020)年  
平成435(2021)年  
平成436(2022)年  
平成437(2023)年  
平成438(2024)年  
平成439(2025)年  
平成440(2026)年  
平成441(2027)年  
平成442(2028)年  
平成443(2029)年  
平成444(2030)年  
平成445(2031)年  
平成446(2032)年  
平成447(2033)年  
平成448(2034)年  
平成449(2035)年  
平成450(2036)年  
平成451(2037)年  
平成452(2038)年  
平成453(2039)年  
平成454(2040)年  
平成455(2041)年  
平成456(2042)年  
平成457(2043)年  
平成458(2044)年  
平成459(2045)年  
平成460(2046)年  
平成461(2047)年  
平成462(2048)年  
平成463(2049)年  
平成464(2050)年  
平成465(2051)年  
平成466(2052)年  
平成467(2053)年  
平成468(2054)年  
平成469(2055)年  
平成470(2056)年  
平成471(2057)年  
平成472(2058)年  
平成473(2059)年  
平成474(2060)年  
平成475(2061)年  
平成476(2062)年  
平成477(2063)年  
平成478(2064)年  
平成479(2065)年  
平成480(2066)年  
平成481(2067)年  
平成482(2068)年  
平成483(2069)年  
平成484(2070)年  
平成485(2071)年  
平成486(2072)年  
平成487(2073)年  
平成488(2074)年  
平成489(2075)年  
平成490(2076)年  
平成491(2077)年  
平成492(2078)年  
平成493(2079)年  
平成494(2080)年  
平成495(2081)年  
平成496(2082)年  
平成497(2083)年  
平成498(2084)年  
平成499(2085)年  
平成500(2086)年  
平成501(2087)年  
平成502(2088)年  
平成503(2089)年  
平成504(2090)年  
平成505(2091)年  
平成506(2092)年  
平成507(2093)年  
平成508(2094)年  
平成509(2095)年  
平成510(2096)年  
平成511(2097)年  
平成512(2098)年  
平成513(2099)年  
平成514(2000)年  
平成515(2001)年  
平成516(2002)年  
平成517(2003)年  
平成518(2004)年  
平成519(2005)年  
平成520(2006)年  
平成521(2007)年  
平成522(2008)年  
平成523(2009)年  
平成524(2010)年  
平成525(2011)年  
平成526(2012)年  
平成527(2013)年  
平成528(2014)年  
平成529(2015)年  
平成530(2016)年  
平成531(2017)年  
平成532(2018)年  
平成533(2019)年  
平成534(2020)年  
平成535(2021)年  
平成536(2022)年  
平成537(2023)年  
平成538(2024)年  
平成539(2025)年  
平成540(2026)年  
平成541(2027)年  
平成542(2028)年  
平成543(2029)年  
平成544(2030)年  
平成545(2031)年  
平成546(2032)年  
平成547(2033)年  
平成548(2034)年  
平成549(2035)年  
平成550(2036)年  
平成551(2037)年  
平成552(2038)年  
平成553(2039)年  
平成554(2040)年  
平成555(2041)年  
平成556(2042)年  
平成557(2043)年  
平成558(2044)年  
平成559(2045)年  
平成560(2046)年  
平成561(2047)年  
平成562(2048)年  
平成563(2049)年  
平成564(2050)年  
平成565(2051)年  
平成566(2052)年  
平成567(2053)年  
平成568(2054)年  
平成569(2055)年  
平成570(2056)年  
平成571(2057)年  
平成572(2058)年  
平成573(2059)年  
平成574(2060)年  
平成575(2061)年  
平成576(2062)年  
平成577(2063)年  
平成578(2064)年  
平成579(2065)年  
平成580(2066)年  
平成581(2067)年  
平成582(2068)年  
平成583(2069)年  
平成584(2070)年  
平成585(2071)年  
平成586(2072)年  
平成587(2073)年  
平成588(2074)年  
平成589(2075)年  
平成590(2076)年  
平成591(2077)年  
平成592(2078)年  
平成593(2079)年  
平成594(2080)年  
平成595(2081)年  
平成596(2082)年  
平成597(2083)年  
平成598(2084)年  
平成599(2085)年  
平成600(2086)年  
平成601(2087)年  
平成602(2088)年  
平成603(2089)年  
平成604(2090)年  
平成605(2091)年  
平成606(2092)年  
平成607(2093)年  
平成608(2094)年  
平成609(2095)年  
平成610(2096)年  
平成611(2097)年  
平成612(2098)年  
平成61